

総合的な学習の時間 学習指導案  
**単元名「何のために働くのだろう？～働く意味を考える～」**

期 日 令和元年 11 月 8 日 (金)  
 場 所 体育館  
 学 級 1 年 A 組  
 男子 18 名 女子 19 名 合計 37 名  
 指導者 田村 敬済

**1 単元設定の理由について**

**(1) 生徒の実態及びこれまでの学習過程について**

本校の総合的な学習の時間のテーマは「人間としてのあり方や生き方を探究する」と設定している。それを受けて、第1学年は探究課題を「何のために働くのだろう？～働く意味を考える～」と設定し、働くことの意味について探究する。

1学期では、自分の進路を考えた上で、働くということについて課題意識をもち、興味・関心のある職業について調べ学習を行った。その後、新聞社やテレビ報道社の方をお招きし、今後のインタビュー活動で必要とされる質問作成やメモの方法などについて学んだ。その学習を活かし、被災した中でも働くことにこだわってきたさいとう製菓、八木澤商店といった企業を訪問し、震災当時の様子や復興にかけ「働く」思いについて学んできた。

5月に総合的な学習の時間に関わる資質・能力について、全国学力・学習状況調査を参考に、質問紙調査を行った。学びに向かう力、人間性等に関わる項目では全国を大きく上回る結果となり、総合的な学習の時間における意欲が高いことがうかがえる。しかし、普段の授業の様子から、物事を深く思考する力が弱いことや、将来の夢や目標をもっている、それを実現するための手段や働くことについて考える経験が少ないことが分かった。これらを踏まえて、1学年の総合的な学習の時間では、探究的な学習過程を意識した単元作りを行い、働く意味について学ぶことを通して、自らの進路や今後の生活を考え、育成を目指す資質・能力を高めたいと考える。

(参考資料) 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 (令和元年度 5月 1年生を対象に実施)

質問番号	質問事項	選択肢			
		1	2	3	4
H31 2(8)	将来の夢や目標を持っている	62.2 44.9	27.0 25.6	8.1 17.9	2.7 11.5
H31 4(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	48.6 11.5	35.1 27.9	16.2 38.9	0.0 21.6
H31 7(34)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	48.6 20.3	43.2 41.2	8.1 28.9	0.0 9.4
H28 9(44)	「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ	40.5 26.0	37.8 42.3	16.2 21.8	5.4 9.7
H28 9(45)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ	73.0 25.8	24.3 47.0	0.0 20.0	2.7 6.9

(1: 当てはまる 2: どちらかといえば、当てはまる 3: どちらかといえば、当てはまらない 4: 当てはまらない)  
 (1段目: 本校の生徒数の割合 (%) 2段目: 全国(公立)の生徒数の割合)

## (2) 題材について

「人間としてのあり方や生き方を探究する」ために、第1学年では「働く意味を考えること」を探究課題とする。1学年の生徒は、中学校に入学し、進路選択という課題に直面する。進路を考える上で、様々な高校や上級学校などを経て最後は「働く」ことにたどり着く。そこで、働く人からインタビュー活動や職場見学を通して働く意味や目的、意義を問うことを通し、自らのあり方や生き方を深く考えることができると考える。「働く」ことの意味や意義について考える際には、「賃金」や「社会貢献度」、「適性」、「家族を養う」などの多様性を知り、働く上でのやりがいや苦労などを実際に働いている人から聞くことが、職業観や勤労観の形成にも繋がると思われる。また、探究の過程を通し、多様な方法で情報を収集したり、情報をもとに課題について自分の考えをまとめたりする活動を繰り返すことで、資質・能力を育成できると考える。

## (3) 指導について

第1学年の生徒は、「働く」意味について深く考える経験が、あまりなかったと思われる。そこで、第1単元では、個人で興味・関心のある職業を調査したり、全体で被災しながらも働くことを継続してきた人々について調査したりする活動を行う。この活動を通し、働く意味を考えることについての課題意識を高めるとともに、情報収集の技能等を育成したいと考える。また、第2単元では、第1単元で学んだことを基に、個人で課題設定、調査活動を行い、様々な角度から働く意味について探る活動を行う。そして、個人の調査をもとに、もう一度全体で働くことについて話し合うことにより、職業観や勤労観の形成や人間としてのあり方を考えることにつなげていきたいと考える。また、情報をもとに様々な方法で整理・分析をしたり、課題についての考えをまとめる場を設定したりすることで、思考力・表現力・判断力等も育成していきたいと考える。そして、視点を明確にして振り返りを行うことにより、生徒が学びの充実感や満足感を感じたり、資質・能力の高まりを自覚したりすることができるようにしたいと考える。積極的に外部との連携を図り、地域の人材や様々な企業の方と関わることで、生徒が意欲的に学び続けることができる単元にしたい。

## 2 単元目標

探究的な見方・考え方を働かせ、働く意味を学ぶ総合的な学習を通して、多面的・多角的に物事を捉えたり、根拠を明らかにしたりしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、次頁のように資質・能力を育成する。

		育成を目指す資質・能力
知識及び技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことについて様々な業種の方々から話を聞き、働く上での苦勞や喜び、やりがいなどを知る。</li> <li>働く目的や意義について「賃金」や「社会貢献度」、「適性」、「家族を養う」などの多様性を理解する。</li> </ul>
思考力、 判断力、 表現力等	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く意味に関わって自ら課題を発見し、設定する。</li> <li>課題解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。</li> </ul>
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットや文献、インタビュー活動など目的に応じて情報を収集する。</li> </ul>
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査して得た情報から共通点を探したり、順序付けて考えたりする。</li> <li>「働く意味」を多面的・多角的に考える。</li> </ul>
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた情報を働く意味と関わって自らの考えを端的に表現する。</li> <li>学習を振り返り、「働く意味」に対する考えの変化に気付く。</li> </ul>
学びに向かう力、 人間性等		<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことについて探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自己の将来を考え、夢や希望をもったり、自らの生活の在り方を見直したりして生活に活かす。</li> </ul>

### 3 単元構想図 (別紙資料)

#### 4 本時について

##### (1) 主題「働く意味について考える」

##### (2) 指導目標

実際に働いている人から「働く」ことについて様々な視点をもって調べてきた。その情報を基に、「働く意味」につながることを整理したり、そこに関わる共通点を探ったりすることで自分なりの答えを見つけることができる。

##### (3) 本時の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く意味について多様性があることを理解できる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた情報について共通する考えを見出すことができる。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	

##### (4) 本時の指導構想

前時までに、自己の探究課題を設定し、働く意味についてそれぞれの視点をもって情報収集を行ってきた。生徒は、様々な業種の方にインタビュー活動を行い、働くイメージをふくらませている。本時では、働くやりがいなどについて共通する考えから働く意味の答えを導き出すことを目指す。そのために、本時の導入場面では、これまでの情報を基に、働く意味に関わる情報を整理する。そして展開部分では、その情報に関わる共通点を探り、働く意味について考える。また、グループで共通点を交流することで新たな視点を得られるようにする。振り返りの場面では、働く意味について正解を一つに絞るのではなく、これまでの学習を通して自らが学んできたことを振り返ったり、働く意味の多様性を感じたりするような時間としたい。



